

平成26年度 上越市社会科部 活動報告

部長 仁田 秀三

1 研究主題

意欲的に社会的事象にかかわり、自ら考え判断し、社会的な見方や考え方を身に付ける社会科授業のあり方

2 研究の概容

社会科部では2つの事業に取り組んだ。1つ目は、上越市社会科スーパーティチャーである城西中学校の渡邊洋臣先生の授業を参観し、協議会を開催した。2つ目は、春日中学校の柳澤一輝先生による社会科における授業のUD化についての講話会を実施した。2つの事業から優れた授業に学び、社会科教師としての力量を高めることにした。

3 研究の実際

(1) 公開授業・協議会

- ① 期日並びに会場 : 11月12日(水) 上越市立城西中学校
- ② 授業者 : 渡邊 洋臣 教諭
- ③ 単元名 : 明治維新の三大改革
- ④ 授業の概要

授業では、政府と住民のつなぎ役としての「戸長」の役割や働きから、様々な課題を抱えながら改革を進める明治政府と民衆の関係を学んでいた。特に、指導者は「分かる」授業のための取組として、UDの視点、出来事マップ(歴史を大観するための学習シート)の活用、グループの話合いによる課題解決、記述による本時のまとめ等で工夫していた。また、これらの取組は、生徒たちの学ぶ意欲を高めようとする授業者の熱意でもあり、実際に生徒たちは意欲的に学習していた。



(2) 講話会

- ① 期日並びに会場 : 11月12日(水) 上越市立城西中学校
- ② 指導者 : 春日中学校 柳澤一輝 教諭
- ③ 内容 : 社会科におけるUDの授業づくりについて
- ④ 講話の概要

「好きな教科」についてのアンケート結果では、小・中学校ともに社会科は最下位である。どの児童・生徒も楽しく「分かる・できる」を感じる確かな学びを保障するための一つのツールとして「授業のUD化」がある。授業の中で不参加を生じやすい「聞く時間」を減らす、考える時間を増やすことが授業の充実につながる。また、授業を「学び」の階層として捉えたときに、それぞれの階層でバリア(困り感)を生じる児童生徒に対して、そのバリアを取り除くための工夫をしていく。

4 成果と課題

今年度は、各種学校教員と一緒に中学校の卓越した授業を参観し、指導事項が多い中学校授業の工夫など多くのことを学ぶことができた。また、講話会では、児童生徒に「楽しい」「分かった」と感じる授業を創っているか考える機会となり、授業のUD化の目指すねらいを、理論と実践例から学ぶことができた。

今後は、身に付けさせたい資質・能力を育成する視点から、言語活動、問題解決的な学習、社会とのつながりを意識した活動を充実する授業づくりが必要になってくる。